

交通脱炭素セミナー 脱炭素のカギは「水素」 ～交通分野の脱炭素化に向けて～

- 日 時：2024年3月7日（木）14:00～17:00（開場:13:30）
- 会 場：ベルサール御成門タワー3階ホール 及び オンライン配信（Zoomウェビナー）
- 参加費：無料
- その他：会場内での撮影・録音は禁止させていただきます。

プログラム

- 【開会挨拶】 **宿利 正史** 運輸総合研究所 会長
- 【基調講演】 **佐々木 一成** 九州大学副学長・主幹教授、水素エネルギー国際研究センター長
「水素エネルギーの将来展望と交通分野への期待」
- 【報告①】 **小御門 和馬** 運輸総合研究所 研究員
「我が国の交通分野の脱炭素化に向けた燃料転換及び水素利用に関する調査研究」
- 【報告②】 **堀尾 怜椰** 運輸総合研究所 研究員
「鉄道における水素利用促進のための環境整備に向けた調査研究」
- 【パネルディスカッション及び質疑応答】
- コーディネーター： **三宅 淳巳** 横浜国立大学大学院環境情報研究院人工環境と情報部門 教授
- パネリスト： **井上 恭豪** 岩谷産業株式会社水素本部水素バリューチーム シニアマネージャー
小倉 隆二 株式会社JALエンジニアリング 執行役員 技術部長
水田 真夫 一般社団法人水素バリューチェーン推進協議会 担当部長
加藤 純 石狩市企画経済部企業連携推進課 課長
堀尾 怜椰 運輸総合研究所 研究員
- 【閉会挨拶】 **佐藤 善信** 運輸総合研究所 理事長

登壇者のご紹介


基調講演

佐々木 一成 九州大学副学長・主幹教授、水素エネルギー国際研究センター長
 <略歴>

1965年京都生まれ。1987年東京工業大学工学部無機材料工学科卒業。1989年東京工業大学大学院理工学研究科原子核工学専攻修士課程修了。1993年スイス連邦工科大学チューリッヒ校工学博士号取得。1995年ドイツ・マックスプランク固体研究所招聘客員研究員。10年間の在欧後、1999年九州大学大学院総合理工学研究科・助教授。2005年より工学研究院・教授。2011年、主幹教授。現在、九州大学副学長（産学官民連携、研究教育推進（エネルギー・脱炭素）担当）、水素エネルギー国際研究センター長、次世代燃料電池産学連携研究センター長。主に、燃料電池などの材料・プロセス研究に従事し、九大「水素プロジェクト」を先導。総合資源エネルギー調査会 水素・アンモニア政策小委員会委員長、脱炭素燃料政策小委員会委員長。

2019年12月令和元年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰（環境省）

2016年9月Hydrogen Energy Engineering: A Japanese Perspective

Kazunari Sasaki, Hai-Wen Li, Akari Hayashi, Junichiro Yamabe, Teppei Ogura, Stephen M. Lyth, Springer発行


報告①

小御門 和馬 運輸総合研究所 研究員
 <略歴>

2010年東京大学航空宇宙工学科卒業。同年国土交通省入省。入省以降、航空局において、航空安全行政を中心として、航空機の運航基準の策定、航空運送事業者の監督、ドローンや空飛ぶクルマといった次世代航空モビリティに関する制度設計に従事。このほか、航空交通管制技術や自動車局での自動車の型式指定及びリコールに関する業務等を経験。

2023年6月より現職。現在、交通分野の脱炭素化に関する調査研究に従事。2050年カーボンニュートラルに向けた交通分野における水素の利活用の実現可能性について、長期的な視点で調査研究を行っている。


報告②

堀尾 怜椰 運輸総合研究所 研究員
 <略歴>

2018年早稲田大学大学院先進理工学研究科電気・情報生命専攻修了。同年東日本旅客鉄道株式会社入社。仙台支社（当時）にて駅設備の維持管理業務に従事。2020年10月からは建設部門において渋谷駅、新橋駅などの駅改良工事に関与し、空調・昇降機・出札設備工事の計画や設計、施工管理に従事したのち、2023年4月より現職。


**パネルディスカッション及び質疑応答
 コーディネーター**

三宅 淳巳 横浜国立大学大学院環境情報研究院人工環境と情報部門 教授
 <略歴>

東京都出身。専門は安全工学、エネルギー学、リスク分析学、社会システム工学。横浜国立大学大学院工学研究科修了。横浜国立大学工学部助手、講師、助教授、教授、同先端科学高等研究院副高等研究院長、学長補佐を経て、理事（研究・財務担当）・副学長。

2023年4月より現職。

主な研究テーマはエネルギー物質及びエネルギーシステムのリスク分析、技術システムのリスクマネジメントなど。火薬学会会長、安全工学会会長等を歴任。経済産業省産業構造審議会、同水素保安戦略の策定に係る検討会、厚生労働省薬事・食品衛生審議会、同法人評価有識者会議、総務省消防庁危険物施設におけるスマート保安等に係る調査検討会、国土交通省航空安全情報分析委員会他、環境省、原子力規制庁等関係省庁、自治体、公的機関等の委員会委員長や委員を歴任。『リスク学入門5「科学技術から見たリスク」』、『リスク共生学』など著書多数。


パネリスト
井上 恭豪 岩谷産業株式会社水素本部水素バリューチェーン シニアマネージャー

<略歴>

福岡県生まれ。2002年3月早稲田大学教育学部卒業。2004年3月早稲田大学大学院理工学研究科卒業。2004年4月岩谷産業株式会社入社。産業ガス・溶材本部にて窒素ガスの製造・販売業務を担当。2010年4月より経営企画部にて株主・投資家に対し経営方針や財務状況の発信を行うとともに、中期経営計画やイワタニ水素シナリオの策定等に従事。2017年10月より広報部にて全社的なPR業務に従事したのち、2021年1月より現職。現在は水素燃料電池船プロジェクトのリーダーとして、2025年大阪・関西万博にて日本初となる水素燃料電池船の旅客運航を実現すべく奔走している。

趣味は将棋。得意戦法は右玉。バランス重視で細い攻めを繋ぐ将棋を信条とする。


パネリスト
小倉 隆二 株式会社JALエンジニアリング 執行役員 技術部長

<略歴>

1966年東京生まれ。1991年日本大学大学院航空宇宙工学専攻修了、同年日本航空株式会社入社。整備現業、整備士国家資格取得後、間接部門で主にアビオニクス、客室仕様開発、新造機導入などを担当。2005～8年 米国シアトルボーイング社で787開発チーム

(Working Together) の一員として、エアラインとしての知見を機体設計に反映する業務に従事。帰国後、JALエンジニアリングの設立以降、同社の技術系組織のマネジメント職を歴任。2018年 欧州技術品質保証部部長(仏エアバス社駐在)、A350の導入準備、機材領収に携わる。2021年4月より現職。現在、お客様、乗務員へ安全、安心を提供するための機材品質の維持向上に努めている。並行して水素、電気を始めとした新たな技術を用いた将来の機体開発、オペレーションへのエアライン技術として貢献の仕方を模索、これを若手エンジニアの育成の一つの機会にしたいと考えている。

2022年内閣府 SIP「革新的構造材料」アドバイザーボードメンバー。

2021年より 公益社団法人日本航空技術協会理事。


パネリスト
水田 真夫 一般社団法人水素バリューチェーン推進協議会 担当部長

<略歴>

高知県生まれ。1995年東京大学経済学部卒業。同年関西電力入社。都市ガス・LNG販売等に従事した後、低炭素まちづくり・スマートコミュニティプロジェクトに従事。2011年から神戸水素CGS実証プロジェクトを立ち上げ、NEDO-FSを推進。その後も大阪万博向け水素燃料電池船のNEDO実証等にも関与し、2021年から水素事業戦略室戦略グループ部長。JH2Aの設立時期から関与し、2022年から現職のJH2A出向。JH2Aでは事業化委員会の全体取り纏めを担う。NEDO「競争的な水素サプライチェーン構築に向けた技術開発事業」採択審査委員会委員、地域脱炭素水素サプライチェーンのビジネスモデル分科会委員などを務める。


パネリスト
加藤 純 石狩市企画経済部企業連携推進課 課長

<略歴>

北海道小樽市生まれ。小樽商科大学商学部卒。1999年石狩市奉職。

札幌市派遣、石狩湾新港管理組合派遣を経て、2023年より現職。

観光部門、港湾振興部門、企業誘致部門など、主に産業振興やシティプロモーションに關する業務を担当。企業誘致業務においては、再生可能エネルギーの活用による地域の脱炭素化に向けた活動を展開。誘致の対象業種としてデータセンターや商業施設などへの再生可能エネルギー導入を提案するほか、物流部門、港湾における船舶や荷役機械等の脱炭素化の推進を今後のテーマとする。